

# やけどを受傷された患者様へ

## \*これからどうなるの？

- よくやけどの傷跡について質問される方が多いのですが、傷の深さや、傷跡が残るかは、受傷後約9日～14日間様子をみなければ判定することができません。
- 明らかに深い傷の場合や、約2週間以上様子を診て傷が治らない場合は、手術（皮膚移植）をお勧めすることもあります。

## \*傷があるうちのお手入れの仕方

- 受傷初期より、風呂またはシャワーなどで直接傷を洗い流してください。石鹸などを使用することも効果的です。（周囲に汗や皮膚の老廃物が着いたままだと感染などの問題を起こすことがあるためです）
- 傷口を消毒する必要はありません。かえって傷の治りを悪くすると言われています。
- 軟膏によるガーゼ交換は最低一日一回以上してください。
- 風呂（シャワー）上がりに乾いたタオルなどで傷口の水分を拭き取り、直接またはガーゼに軟膏を伸ばしてから貼付してください。
- 傷の状態によってはフィブラスプレーという薬も使用します。これは皮膚などの再生を促し、熱傷潰瘍を早く治すためのものです。軟膏をつける前に傷口に噴霧してください。薬は冷蔵庫で保存してください。
- 感染がひどくない限り、抗生物質（化膿止め）などの薬は必要ありません。
- 顔の軽度のやけどなどでは、ガーゼを当てずに軟膏をつけたまま開放にしたほうが良い場合もあります。
- 足のやけどの場合、歩行をひかえ安静にしてください。
- 水分（お茶、スポーツドリンクなど）は、普段より多めに飲みましょう。体が脱水状態になると体調を崩したり、傷自体に悪影響を及ぼしたりします。  
\*ただし、日常的に水分制限がある方は医師にご相談ください。

## \*傷が治ってからの手入れの仕方

- 傷跡が多少残ることもありますが、今後の治療次第でできるだけ目立たなくすることもできます。傷が治ってからも受傷後最低3ヶ月から6ヶ月は日焼け止めクリームなどで、日焼け予防をしてください。
- ケロイド（みみずばれ）は受傷後2～3ヶ月くらいから出現してきます。目立つ傷跡や、ケロイド、引きつれとなってしまった場合は医師にご相談ください。

以上ご不明な点がありましたら、医師または看護師にご相談ください。

名古屋共立病院 形成外科

TEL：052-362-5151